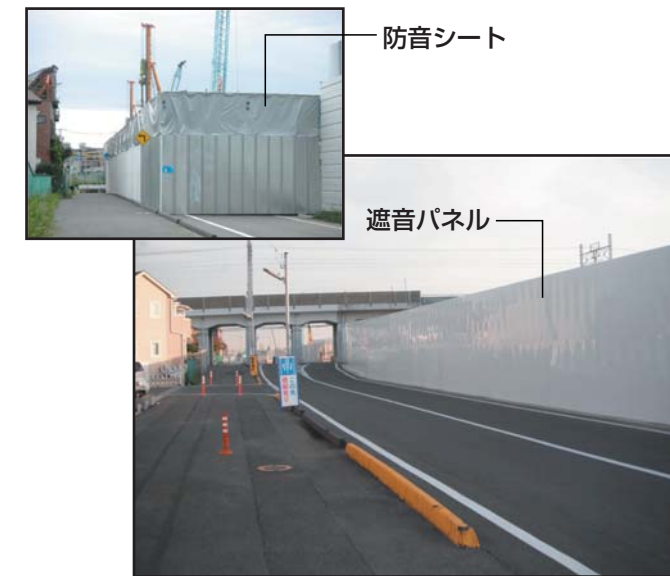


工事中に於ける周辺環境への配慮

地域の皆様に極力ご迷惑のかからないよう、工事関係者全員で細心の注意をはらいながら工事を進めています。
ここでは代表的な周辺環境への対策事例を紹介します。

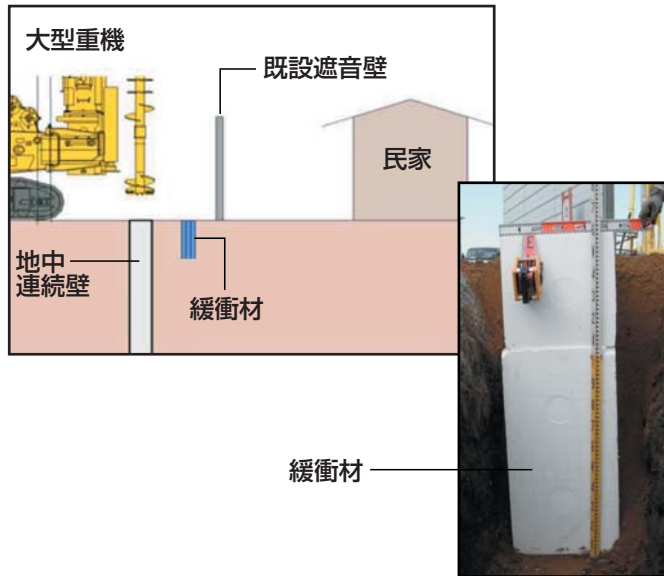
【騒音対策】



防音シート
遮音パネル

工事で発生する騒音を極力工事区域外にもらさないための工夫として、防音シートや遮音パネルを設けています。

【振動対策】



大型重機
民家
地中連統壁
緩衝材
緩衝材

工事で発生する振動を極力工事区域外にもらさないための工夫として、地面に緩衝材を設けています。

【粉塵の飛散防止】



散水車
防塵ネット

工事車両の走行等により発生する粉塵を極力工事区域外に飛散させないための工夫として、散水や防塵ネットを設けています。

【見通しのよい仮囲い】



透明な仮囲い

工事中の飛散防止や防犯のために工事区域の境には仮囲い等を設置していますが、道路交差点などは歩行者やドライバーの視認性を極力妨げないために透明な材料を設けています。

工事の進め方

高速道路部の東京外環自動車道は「掘削部」であるため地下に設けられ、地上に国道部(一般国道298号)と環境施設帯(※)が設けられる基本構造となっています。まずは、東京外環自動車道となる地下の函体構造物の工事を先行、その完成ののちに地上の国道部と環境施設帯の工事を進めてまいります。
※環境施設帯とは植樹帯、副道（生活道路）、歩道等のことで周辺にお住まいの皆さまのためのスペースです。

高速道路部の工事方法

高速道路部については主に開削工法にて工事を進めています。

1 山留杭打設



一般施工手順

2 掘削



2 山留材設置



3 鉄筋組立



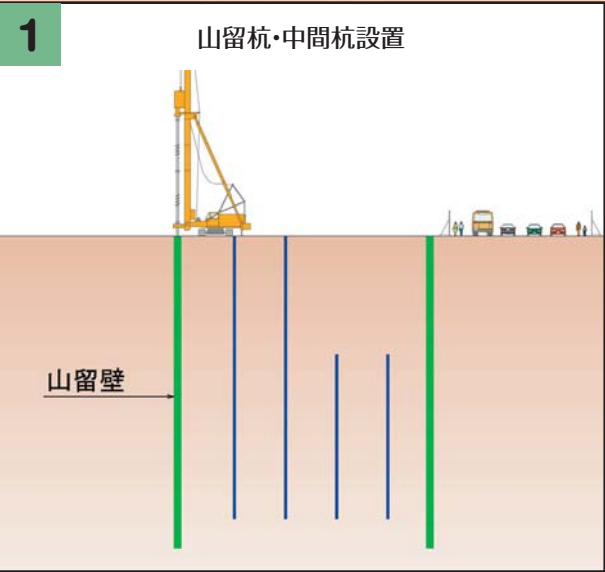
3 型枠組立



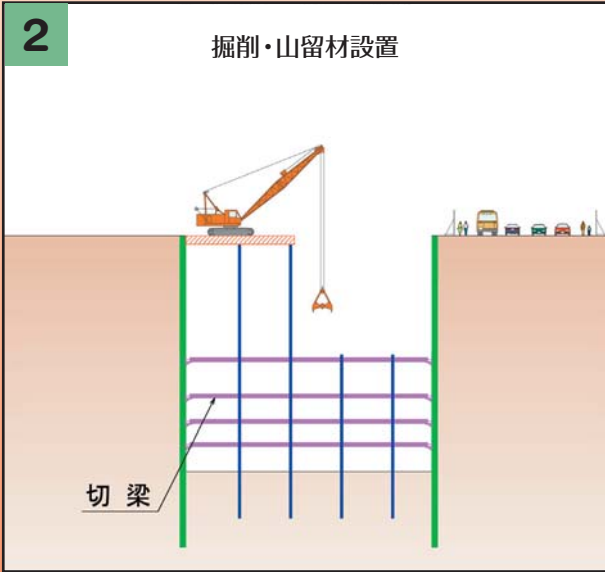
3 コンクリート打設



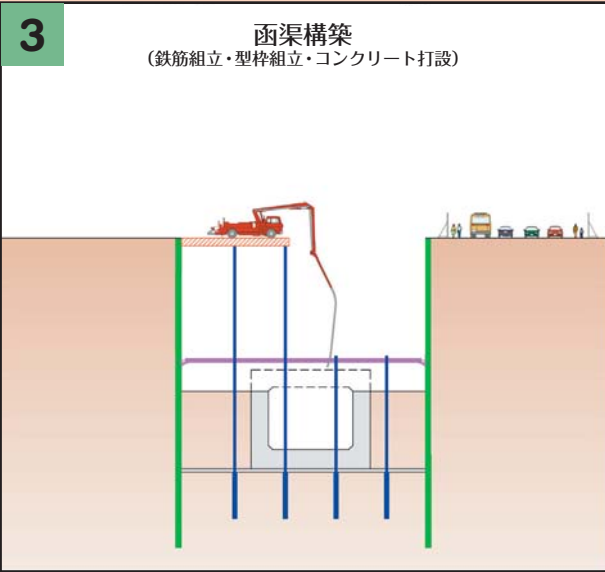
1 山留杭・中間杭設置



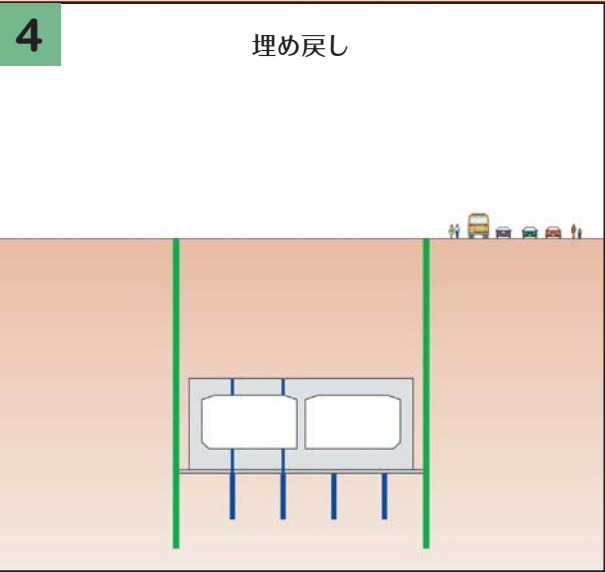
2 掘削・山留材設置



3 函渠構築 (鉄筋組立・型枠組立・コンクリート打設)



4 埋め戻し



地下に構造物を設けるために地盤掘削を行い、函体をつくるための空間を設ける必要があります。空間を設ける際に周辺地盤が崩壊するのを防ぐために鋼材などで構成する山留杭・中間杭を設けます。

周辺地盤が崩壊しないように山留壁や中間杭を支点とした山留材を設けながら所定の深さまで掘削します。

掘削完了ののち床部の整正を行い、鉄筋組立、型枠設置、コンクリート打設の工程にて函渠の構築を行います。

函渠の完成ののち、掘削した土砂等で埋め戻し完成となります。

安全への配慮

工事についてはたくさんの資機材を使用するほか、掘削土砂の運搬などもあり、多くの車両が現場を出入りします。運搬については、一般道への出入りを幹線道路に限り、さらに出入り口には交通整理員を配置し、一般車両の走行を優先して安全に工事を進めています。



完成イメージ

国道 298 号と環境施設帯の間は遮音壁を設置することを計画しています。環境施設帯は地域内自動車の移動経路や歩行者と自転車の通行空間となり、安全で快適な道路空間の役割を担います。さらに沿道の良好な生活環境の確保のために地域分断に対応するための歩道橋などを適宜設けます。
(※設計未確定のため、実際とは異なる可能性があります。)

